

# 医療技術部



## 1. スタッフ

部長：横山 俊朗  
副部長：小原 大輔

- ① 中央検査部技師長：横山俊朗
- ② 中央放射線部技師長：羽手村昌宏
- ③ リハビリテーション療法士長：児玉了
- ④ 病理部技師長：柿沼廣邦
- ⑤ 臨床工学技士長：小原大輔
- ⑥ 輸血管理技師長：福吉葉子

医療技術職員 165 名（臨床検査技術部門、輸血管理技術管理部門）：技師 48 名、看護師 10 名、内視鏡技師 2 名 診療放射線技術部門：45 名、リハビリテーション技術部門：27 名、病理技術部門：10 名、ME 機器技術部門：23 名）

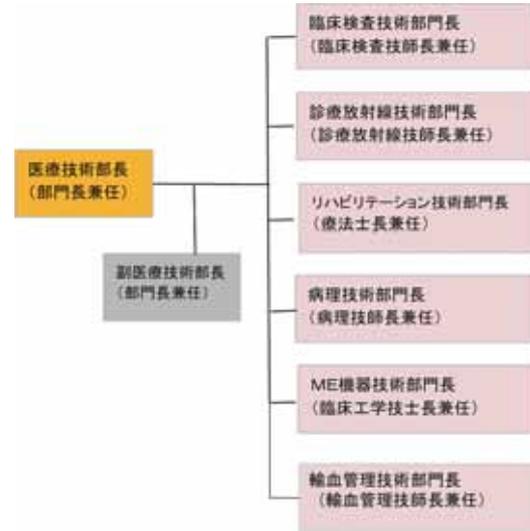
## 2. 特徴、概要

医療技術部は、「業務の効率化と職員の資質の向上、及び病院の診療支援、経営改善への積極的参画」を目的とし、平成 28 年 4 月から臨床検査技術部門と診療放射線技術部門の 2 部門にリハビリテーション技術部門、病理技術部門、ME 機器技術部門、令和 2 年 4 月より輸血管理技術部門が加わり、6 部門で構成されている。主な職種は、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、臨床工学技士、および看護師内視鏡技師で、職員は、各中央診療施設（中央検査部、輸血・細胞治療部、中央放射線部、リハビリテーション部、病理部、ME 機器センター、腎・血液浄化療法センター、中央手術部等）に配置され、それぞれの専門性を生かし日々の業務を遂行している。教育ラダーシステムに基づき専門的スキルアップ向上を行える体制を構築した。

## 3. 体制

当部は、24 時間体制で各診療科の日常業務から救急医療及び先進医療等の診療支援を推し進め、本院の診療・教育・研究を支援協力する。また、タスクシフト・シェアについても各部門の専門性を活かした業務について推進し、医療安全に配慮した診療支援を有効に行うこととする。業務効率性を高めるためには、個々の意識改革を進め本質的なやりがいを求め、各部門が有する使命を再認識することが重要である。今後も医療技術部の設置目的である医療技術職員の教育活動を推進し、本院の理念と医療方針に基づく優れた医療人を育成する環境作りに努める。

## 4. 組織図



## 5. 実績

令和 4 年 4 月現在、全国国立大学病院 20 施設においてマネジメント改革の提言に沿い、病院経営と診療支援および医療技術者教育を推進する目的で運営されている。

- ① 令和 4 年度の主な活動
  - 1) 部門長会議（月 1 回）
  - 2) 医療技術部合同研修会（年 2 回）

## 6. 資質の向上

個人の資質向上の目的で、認定技師や専門技師等の資格を積極的に取得している。また、これらの資格取得により、大学病院の高い専門性にも対応できるようになっている。

- ① 臨床検査技術部門および⑥ 輸血管理技術部門の資格取得状況

超音波検査士（循環器、腹部、体表、血管）、認定心電図技師、認定臨床化学者、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師、認定臨床微生物検査技師、感染制御認定臨床微生物検査技師、細胞検査士、国際細胞検査士、認定血液検査技師、認定輸血検査技師、認定 HLA 検査技術者、細胞治療認定管理師、認定病理検査技師、認定サイトメトリ技術者、栄養サポートチーム専門療法士、糖尿病療法指導士、遺伝子分析科学認定士、二級臨床病理技師、緊急検査技師、認定救急検査技師、内視鏡技師、JHRS 認定心電図専門士、有機溶剤取扱作業主任者、特定化学物質および四アルキル鉛等作業主任者

- ② 診療放射線技術部門の資格取得状況  
医学物理士、放射線治療専門技師、放射線治療品質管理士、検診マングラフィ撮影認定診療放射線技師、

磁気共鳴(MR)専門技術者、血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師、核医学専門技術者、救急撮影認定技師、血管診療技師、X線CT認定技師、乳房超音波検診認定検査士、認定医療情報技師、医用画像情報管理士、初級システムアドミニストレータ、画像情報技能検定3級、X線CT検査技能検定3級、胸部画像読影検定3級、放射線管理士、放射線機器管理士、臨床実習指導教員、第一種放射線取扱主任者、AHA BLS Healthcare Provider、DMAT 隊員

③ リハビリテーション技術部門の資格取得状況  
糖尿病療法指導士、3学会合同呼吸療法認定士、心臓リハビリ指導士、がんリハビリ算定資格、がんリハビリ企画者資格、認定理学療法士、認定作業療法士、認定言語聴覚士、福祉住環境コーディネーター2級、日本不整脈心電学会心電図検定3級、リンパ浮腫算定資格、心不全療養指導士、ICLS 認定資格、日本義肢装具学会認定士、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士、発達障害児指導士

④ 病理技術部門の資格取得状況  
細胞検査士、国際細胞検査士、認定病理検査技師、緊急臨床検査士、化学物質取扱作業主任者、有機溶剤取扱作業主任者、特定化学物質作業主任者

⑤ ME 機器技術部門の資格取得状況  
不整脈治療専門臨床工学技士、呼吸治療専門臨床工学技士、周術期管理チーム臨床工学技士、体外循環技術認定士、透析技術認定士、3学会合同呼吸療法認定士、臨床高気圧酸素治療技師、アフェルス認定技師、心血管インターベンション技師、第1種ME、MDIC 認定士、専門臨床ME、日本急性血液浄化学会認定指導者

## 7. 臨床試験・治験への取組

臨床検査技術部門では、本院では治験支援センターをはじめ他のスタッフの理解と指導を賜り、看護師以外でのコメディカル職員が専門性を生かした技術と知識を多いに発揮している分野であり、今後、益々その活動に期待が高まっている。リハビリテーション部門は平成30年より皮膚科の治験において、筋力・筋持久力の評価を担当し、現在も継続中である。

## 8. 地域医療への貢献

臨床検査技術部門は、県全体の医療レベルの向上と健康管理対策に対して、県下唯一の大学病院の使命として取り組んでゆくことは重要な課題と考え、医療過疎地域の行政組織とタイアップした健康啓発活動として肝疾患センターと共同で展開した。病理部門では、がんゲノム医療に対応した標本作製を行っており、がん拠点病院として質の高い医療を提供している。

### ① 活動

病気の予防、早期発見をするためには、子供か

ら大人まで正しい知識と自分のからだに対する興味をもってもらうことを目的に健康フェア、大学病院子供見学デーなど、地域包括的な健康維持管理活動として検査カフェなどを行っている。令和4年度もコロナウィルス感染対策のため子供見学デーについては未実施であった。

リハビリテーション技術部門においても、リ関連職種の研究発表・意見交換会を行っているが令和4年度はコロナウィルス感染対策を講じ、2度開催している。また、3Dプリンター製肘継手を用いた肘スプリントの研究、生体肝移植患者における運動負荷量の設定とリハビリテーションプログラムの構築の研究の継続と、てんかん術後の就労阻害因子の研究、HfPEF と運動耐容能規定因子の検討、気流閉塞とIMT 肥厚との関連性、など多岐にわたる分野にて研究も行っている。

・令和4年度研修引き受け者

臨床検査技術部門：1名

輸血管理技術部門：1名

病理技術部門：0名

リハビリテーション技術部門：0名

## 9. 医療人教育の取組

当部における医療人教育は多岐に渡り、本学医学部学生から卒後研修医、リハビリ実習、保健学科医療技術専攻科学生及び熊本保健科学大学医療技術専攻科学生、(財)国際保健医療交流センター研修生、認定施設に伴う微生物検査実習、輸血検査実習、超音波検査実習などの学生や社会人を対象とした卒前卒後教育に参画している。

## 10. 研究活動

大学病院の技術系職員としては研究も重要である。下記に令和4年度の研究活動を示す。

① 臨床検査技術部門+⑥輸血管理技術部門  
受託研究4件、邦文論文2編、講演3回、研修6回、全国学会4題、地方会15演題など

② 診療放射線技術部門

英語論文3編、総説1編、講演33回、国際学会2題、全国学会9題、地方会9題

③ 病理技術部門

邦文論文1編(投稿中)、雑誌編著1編、講演2回、全国学会3題、九州地区学会2題、地方会1題

④ リハビリテーション技術部門

英語論文2編、講演1回、全国学会6題、地方会1題

⑤ ME 機器技術部門

国際学会1題

特別講演、シンポジウム、一般演題など計8題